

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中野支部
機関紙「みらい」
NO. 4331
23年3月7日(火)
Tel・Fax 095-828-1953
文責 支部書記長

大幅賃上げ実現へ 職場から声を上げよう

おはようございます。

2022年は原料価格の高騰やエネルギーコストの上昇などで食料品などを中心に記録的な値上げの年となりました。

今年に入ってもこの傾向は続き帝国データバンクによれば2月には4,000を超える品物が値上げされ、4月までに値上げするのは7,000を超えるとの調査結果があります。これは昨年の同時期より60%も多い状況です。

歴史的な物価上昇に賃金アップが追い付かず、我々の生活は厳しくなるばかりです。

その様な中迎えた23春闘では各労組が例年を上回る賃上げを要求しています。

賃上げは賃金水準を一律に引き上げるベースア

ップと勤続年数が上がることで増える定期昇給からなります。ベアと呼ばれるベースアップを実施すると企業は負担が増えるため、ベア実施には慎重になっています。

23春闘ではこのベアを含む賃上げが焦点となりますが、経団連は大手企業が賃上げする事を「社会的責務」と言っています。

春闘は労働組合が中央委員会などで決定した春闘方針を基に作成した要求書を会社側に提出します。数回の交渉を重ねて回答が行われることが慣例となっていて、大手企業の集中回答日は3月中旬となっております。



今年はそのを待たずして妥結する企業が相次いでいます。

トヨタ自動車やホンダなどは労働組合からの要求に経営側から2月22

日に満額回答が示され異例のスピード決着となつています。また、3月1日にはジェイテクト、3月3日には大林組も満額回答で妥結しています。



私たちが郵政ユニオンは全組合員対象によるストライキ1票投票を行い、70%を超える高批准でストライキ権を確立しました。現在、本部はストライキを視野に入れた交渉を会社と行っています。昨年までは7年連続ベア「ゼロ」でしたが今年

はベアを含む大幅賃上げを実現しなければなりません。その為には各支部の運動も重要になってきます。

昨年までとは違いコロナ禍の制限が無く、全国各地で開催されている集会などにも参加しやすくなりました。支部では3月3日に東京で開催された本社前集会上支部組合員2名を派遣し、また、

3月5日に広島で開催された「23春闘西日本討論集会」に原田副支部長が参加しています。今後地域で開催される各種春闘行動に参加します。

会社には私たちの要求に答える体力は十分ありません。大幅賃上げを実現するために各支部、各職場で声を上げていきましょう。



混合要員の配置 見直しが必要

先日の集配営業部のミーティングで、午前交付のレターパックプラスは「12時までに配達するように」との周知がありました。

今まで長中局ではレターパックプラスは昼の帰局までに配達すれば良いとの認識で、12時過ぎ

での配達も多く見られました。今回、会社が文書として発出したことにより、今後は12時過ぎでの配達は時間帯不遵守となります。

ただこの周知は役職者ミーティング時の資料として配られたもので、全社員が周知内容を理解したとは思えません。全社員を集めての周知を行い、周知漏れがないようにする必要があります。

現在、集配部では日勤の混合者配置が出来ない班が多く、速達やレターパックの多くは通配区での兼配です。

今後は、午前配達終了後の帰局の際に配達して来るという事は出来なくなり、午前中には配達に行かない地域まで兼配郵便物の為に寄り道をするという事がこれまで以上に増えます。また一昨年の土曜休配以降、速達やレターパックは増加しており混合担当者の負担も増大しています。担当社員に無理な配達を強要しないためにも、速達・レターパックの物数調査を行い、増加数に見合った適切な要員配置を求めます。

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員と希望者全員を正社員化を。

ゆげ、均等待遇、なげん差別。

ユニオンは労基法裁判に勝利する。

